

栗原市総合計画



〒987-2293 栗原市築館薬師一丁目7番1号
TEL : 0228-22-1125 FAX : 0228-22-0313
e-mail : kikaku@kuriharacity.jp <http://www.kuriharacity.jp/>

市民が創る くらしたい栗原

古来より栗駒山を水源とする清らかな水が、複数の河川を經由して、栗原で暮らす人々の生活に繁栄をもたらしてきました。

栗原の歴史は、自然環境と人々の日常生活が良好な関係を築いてきた歴史でもあります。

そして現在においても、先人から引き継いできた自然が多く残されています。

これからの栗原市において、国際的視野と情報を携え、恵まれた自然環境を活かして、人間社会が築くべき環境と共生する理想的な生活空間を創造するために、市政運営の理念として「市民が創るくらしたい栗原」を掲げます。

将来につながる
全市一丸の夢を
描きます

個性ある
地区づくりを
まちづくりの
基礎とします

社会変動に
揺るがない安定した
市民生活の持続を
目指します

恵まれた
自然環境を活かして
市民生活の質的向上を
目指します

目次

総合計画策定の指針 4

1 序論

- 1 策定趣旨 7
- 2 計画の構成と期間 9
- 3 人口の将来予測 11

2 基本構想

- 1 将来像 15
- 2 基本方針 17
- 3 土地利用構想 20

3 基本計画

- I 恵まれた自然に包まれた、質の高い暮らしのまちを創るために 24
- II 豊かな感性と生きる力を育むまちを創るために 34
- III 健康や生活に不安がなく、優しさと思いやりに満ちたまちを創るために 44
- IV 地域の特性を活かした、産業や交流が盛んなまちを創るために 54
- V 市民がまちづくりを楽しめるまちを創るために 64

総合計画策定の指針

1. 計画策定の意義

平成17年4月1日に誕生した「栗原市」の、まちづくりの指針となる総合計画を策定します。

総合計画は基本構想・基本計画などを包含する総称であり、地方自治法第2条第4項では「市町村は、その事務を処理するにあたっては、議会の議決を経てその地域における総合的かつ計画的な行政の運営を図るための基本構想を定め、これに即して行うようにしなければならない。」と規定しています。このことから、市を取り巻く急激な社会情勢の変化を施策に反映し、市民の意識、市の特性の把握及び新市建設計画の策定経緯等を踏まえつつ、旧10町村の分散型事業構造から一体性・連携に配慮した統合的・事業構造へ改めていくために策定するものです。

2. 計画の位置付け

総合計画は、行政運営の指針であるとともに、市民や団体などの活動に対する指針となることから、次のように位置付けられます。

①まちづくりの最上位計画

総合計画は、新市建設計画（栗原市まちづくりプラン）を発展的に継承・包括し、栗原市後期過疎地域自立促進計画、栗原市国土利用計画、その他各種個別計画の指針となり、まちづくりの最上位に位置付けられる計画とします。したがって、各種個別計画の策定に当たっては、その方向性や施策について整合性を図ることになります。

②計画的・効率的行政運営

総合計画は、まちづくりの総合分野を包括するものであり、長期的展望に立った計画的、効率的行政運営の指針を示す計画とします。

特に、市民要望が多様化する中で、行政効果が問われており、施設などハード面のみならず、活動や運営方法などソフト面についても十分考慮した計画とします。

③市民・民間活動との連携

市民と行政が一体となった協働的まちづくりが求められている今日、総合計画は行政運営のみならず、市民や団体など民間活動の指針を示すものとして重要視されてきているため、まちづくりへの参画方法や活動方向を明らかにするとともに、活動の誘導、支援などを行う計画とします。

④栗原市の個性

特に近年、個々の市町村の主体性や独自性が問われており、“栗原市を誇れるまちづくり”に努める計画とします。



1

序 論

1

策定趣旨

2

計画の構成と期間

3

人口の将来予測

策定趣旨

栗原市総合計画を策定するにあたって、市の現状や歴史的背景、昨今の社会情勢などを検討し、以下のとおり計画策定の趣旨とします。

将来につながる全市一丸の夢を描きます

栗原市は、平成 17 年(2005 年)4 月 1 日に 10 町村が合併して新たに誕生しました。新しいまちづくりの計画は先人から受け継いだ大切なものを守り、次世代にしっかりと継承される、ふるさとづくりの指針とならなければなりません。

栗原市総合計画は、市民が主体となって地域づくりに取り組み、その自主的な活動を行政が的確に支援するパートナーシップを確立し、全市一丸となって将来につながる夢を描きます。

個性ある地区づくりをまちづくりの基礎とします

栗原市を構成する各地区は、合併まで約 50 年間にわたって 10 町村によって運営されており、それぞれの地区に固有の長い歴史があります。各地区は、地形、気候、産業などに特色を持ち、個性ある文化を形成しながら人が生まれ育ち、生活を営んできました。

このような各地区の個性を活かして、それらが栗原市として一つになることで、より大きな魅力を創り出していくことを、これからのまちづくりの基礎とします。

社会変動に揺るがない安定した市民生活の持続を目指します

平成 17 年(2005 年)の国勢調査の結果、これまでほぼ一貫して増加してきた人口が減少に転じ、日本の社会構造は転換期を迎えました。この傾向は、高齢化、少子化によりさらに進行し、今世紀末には人口が半減するとも予測されています。こうした中で、行政組織は、国も地方も行財政の抜本的な構造改革が迫られています。

栗原市においても、より一層財政運営が厳しくなることが予想される中で、国や県からの自立が求められており、市民による積極的な行政への参加によってこれまで培った豊かさを持続する方策を見出さなければなりません。

恵まれた自然環境を活かして市民生活の質的向上を目指します

20 世紀は、人口が農村から都市へと大きく移動し、数々の都市問題を生んできました。その反省から、今世紀は地球規模の環境問題や循環型社会の構築などが注目を浴び、環境と共生する文化的な生活の在り方が模索されています。

栗原市は、豊かな自然環境を活かしながら、市内の各地区がそれぞれに賑わい、子どもから高齢者まで全ての市民が充実した人生をおくることができる生活環境の実現と、市民生活の質を高めるまちづくりを目指す指針として、栗原市総合計画を策定します。

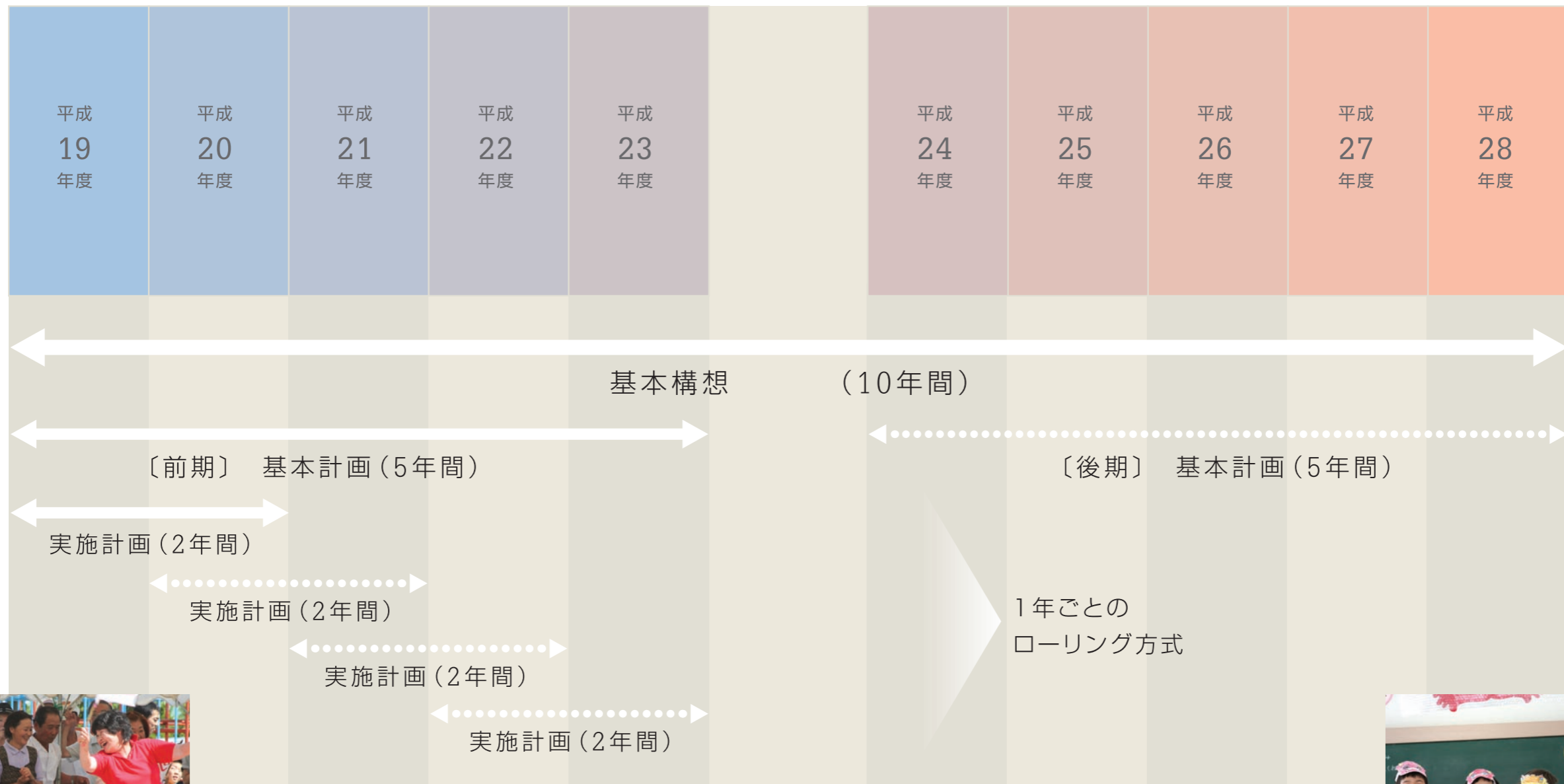
計画の構成と期間

栗原市総合計画は、基本構想、基本計画、実施計画の3層で構成します。

この計画の期間は、栗原市基本構想の計画期間を10年間、平成19年度から平成28年度までとし、基本計画は施策体系を示す計画として、前期計画を平成19年度から平成23年度までの5年間、後期計画を平成24年度から平成28年度までの5年間とします。

実施計画は、基本計画に準じながら、行財政改革の進捗や単年度の予算編成と連動して計画される2年間の計画となり、1年ごとの見直しが行われる事業計画となります。

そして、総合計画期間内における行財政運営において、柔軟かつ効率的に事業展開ができるよう、適切な計画の進行管理を行います。

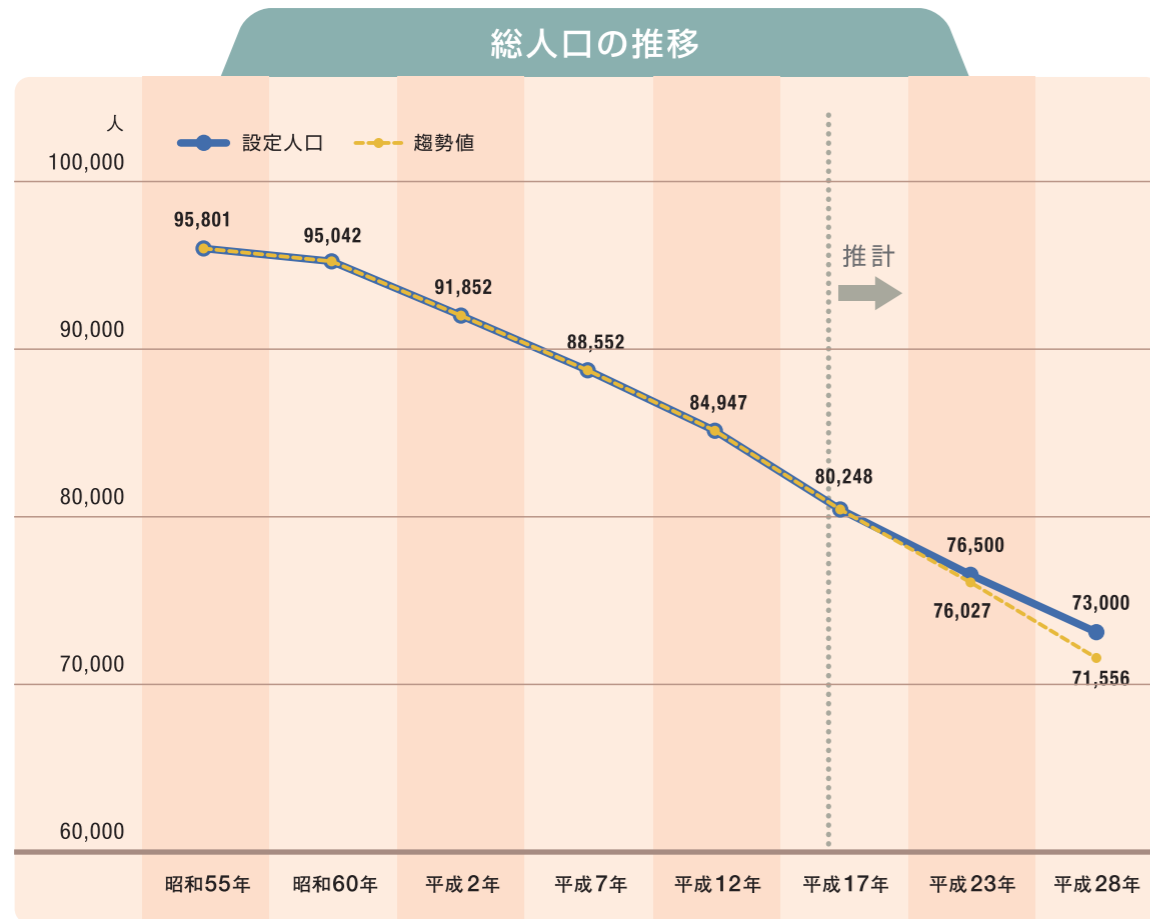


人口の将来予測

平成28年における栗原市の計画人口 → 73,000人

栗原市の人口は、緩やかな減少傾向が続いています。日本の総人口が減少に転じ本格的な少子・高齢化時代を迎えており、栗原市は、さらなる人口減少の加速化が予想されます。将来の計画人口は、平成28年の推計人口(約71,500人)に対して、市民生活の質的向上を目指す多様な居住環境の整備や、子育て・教育環境の整備、雇用機会の創出などによる若年層の定着、都市圏からの移住希望者への定住化促進施策などを着実に実施し効果を上げることによって、人口減少の加速化を食い止め、平成19年度から10年後の総人口は、平成23年の76,500人(推計人口は76,027人)を経て、平成28年には73,000人と設定します。

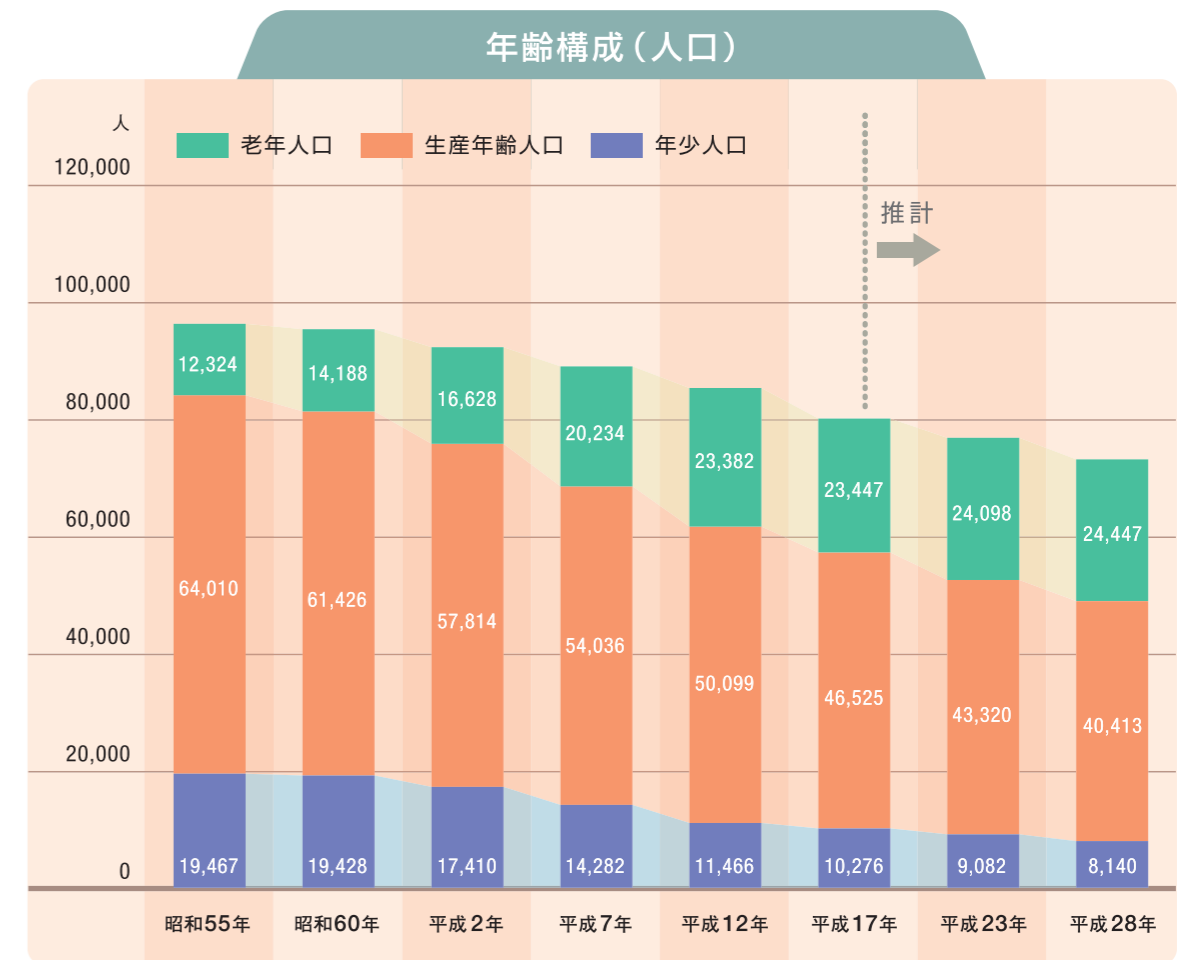
また、世帯数については、平成28年には23,500世帯と設定します。1世帯の平均人員は減少傾向が続き核家族化がさらに進行し、市民の高齢化が進む栗原市では、特に高齢者世帯の核家族化が進むと予想されます。



| | 昭和55年 | 昭和60年 | 平成2年 | 平成7年 | 平成12年 | 平成17年 | 推 計 | |
|-----------------|--------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|-----------------|--------------------------|--------------------------|
| 人 口 (年平均伸び率) | 95,801 | 95,042 -0.2% | 91,852 -0.7% | 88,552 -0.7% | 84,947 -0.8% | 80,248 -1.1% | 平成23年 76,500 -0.8% | 平成28年 73,000 -0.9% |
| 世帯数 | 23,425 | 23,415 | 23,262 | 23,563 | 23,864 | 23,737 | 23,600 | 23,500 |
| 1世帯の 平均世帯人員 | 4.09 | 4.06 | 3.95 | 3.76 | 3.56 | 3.38 | 3.24 | 3.11 |

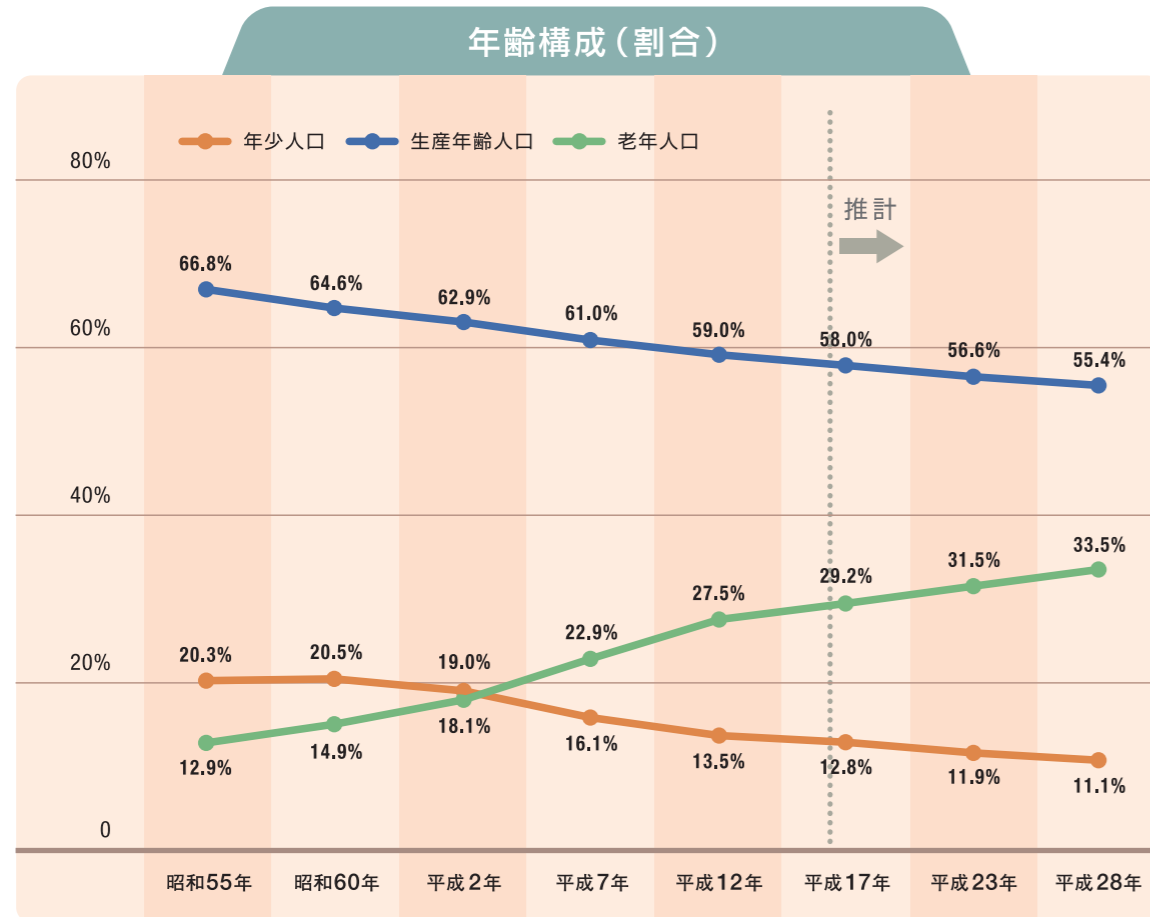
■ 年齢構成

平成28年における栗原市の計画人口を73,000人と設定すると、その年齢構成は、年少人口(15歳未満)が約8,100人に、生産年齢人口(15～64歳)は約40,400人になり、老年人口(65歳以上)が約24,450人になると推測されます。



人口の将来予測

各年齢区分別人口の総人口に対する割合をみると、生産年齢人口と年少人口の割合が減少し、老年人口の割合が増加する傾向が明確となり、栗原市の高齢化率は、平成28年には33.5%になることが推測されます。



2

基本構想

- 1 将来像
- 2 基本方針
- 3 土地利用構想